

な か ま

福岡県知的障害者施設家族会連合会 会報

発行
福岡県知的障害者
施設家族会連合会
(略称：福施連)

編集
広報委員会

〒812-0854
福岡市博多区東月隈
3-1-4-106
☎/FAX (092) 503-0579

コロナ感染

緊急事態時に思うこと

福岡県知的障害者福祉協会 会長 **木高 徳典**
きだか よしふみ



令和2年4月7日、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、福岡県を含む7都府県に緊急事態宣言が出され、学校は休校、会社等には自粛要請・休業要請が出され、多くの人が自粛生活を始めました。当然私たち福祉サービス事業所もそれまでとは違った活動内容や支援体制で支援を行うことになりました。

こうした事態の中、福祉サービス事業所は「休業要請」の対象とならなかったということ踏まえ、改めて私たちの障害福祉事業の役割とは何かを考えてみました。「障害福祉事業は、障害者の安心・安全な暮らしを守り、様々な場面において困難さを持つ人たちへ、適切な支援を行うことで、日常生活を円滑に行えるように支援を行う」という役割です。

福祉事業者の役割

今回の新型コロナウイルス対策の中でも、普通に取られる対策だけでなく、障害に対する特別な配慮の必要性を各事業所が改めて考え、様々な対策(利用者への感染防止第一)を取っています。私自身も日々その

ことに向き合いながら、障害福祉事業等の果たすべき役割と責任の大きさを痛感しています。

こうした事態を機に、社会における障害福祉事業の必要性や、様々な場面での環境整備の必要性等々しっかりと発信し私たちだけでは対応できない具体的な対策などの提言も行っていきます。

新たな生活様式も当然施設での今後の課題になると思います。利用される方々の安心安全な充実した生活のための取り組みに向けて精進してまいります。ご家族の皆様には、今後ともご理解ご協力のほど、改めてお願い申し上げます。

全国大会中止

繰り延べ開催で来年開催は、熊本県連が取組むことになっていましたがコロナ問題で見通し不明であるため、現時点では、来年度も全国大会開催は未定です。

にぎやかに全員発言 福施連学習会

令和2年9月27日、クローバープラザにて、令和2年第1回福施連学習会が開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場定員の半分程度という制限の中、参加者は入館時には検温・手指消毒を行い、会場へ入室しました。

この学習会は、例年各家族会の取り組みや悩み事を共有することで、今後の活動に活かすことを目的に、講師も招かず、全員討論形式で行われています。

冒頭の八木会長による挨拶では、安心・安全・快適な施設づくりで有名な高知県「あじさい園」で新型コロナウイルスの集団感染が発生した際、県立病院との連携や地域住民の理解で苦境を乗り越えられたことが紹介されました。

その後、参加者全員の自己紹介から始まり、コロナ禍における施設の利用や家族会運営・後見人の

家族会への参加・家族会費の徴収方法・利用者の名簿管理・家族会役員の世代交代・家族会の役員手当など、様々な議題で活発な話し合いが行われました。

他の施設の話聞くことで、今まで考えたこともなかった事など、新たな発想が芽生え、今後の家族会活動の活性化に寄与する学習会になりました。

公明党

熊本県北九州市

意見交換

8月1日の北九州市の会場には八木・奥・横澤の3名で、8月6日の福岡県本部会議室には田中副会長も参加して4名が出席しました。

北九州市議団への要望書提出

一、入所施設利用者やグループホーム利用者が安定して支援が受けられる支援職員の配置基準の見直しと処遇改善を急いで下さい。



二、知的障害者の特性を熟知し福祉職の専門家としての職員を育成して下さい(研修の義務化も)
三、障害者福祉制度と介護保険制度との一体化や統合には反対です。2013年に批准した国連障害者権利条約に沿った福祉の向上に自治体としても努力するよう公明党の活動をお願いします。
四、入所施設利用者がコロナ肺炎

になった場合、特別療養室設置が困難な施設には、適切な対策が即時実行できるよう北九州市に強く要望してくださるようお願いいたします。

公明党熊本県本部への要望書

一、入所施設利用者やグループホーム利用者が安定して支援が受けられる支援職員の配置基準の見直しと処遇改善を急いで下さい。
二、知的障害者の特性を熟知し福祉職の専門家としての職員養成を急いで制度化して下さい。
三、障害者福祉制度と介護保険制度との一体化や統合には反対です。2013年に批准した国連障害者権利条約に沿った福祉の向上に国だけでなく各自治体でも努力するよう公明党議員御一同様の御活躍を要望します。
四、入所施設利用者がコロナ肺炎患者になった場合、特別療養室設置が困難な施設には、適切な対策が即時実行できるよう国会及び各自治体での救援対策の実現を求めて下さることを切に希望いたします。

定期総会議案 書面採決 コロナ対策

今年度春以来新型コロナウイルス肺炎の感染が大きく広がりを見せ、日本全土だけではなく、世界中に患者を激増させています。効果的なワクチンもまだ製品化されておらず、特に高齢者が重症化し、死者も増え続け、国内だけで10月14日現在1638名で福岡県の死者は99名と報道されています。

このような状況の中で、福施連定期総会を5月24日に予定していたため拡大執行部会で協議し、今年度活動方針や予算を書面採決せざるを得ないと判断しました。

口頭による報告や議案の検討が出来るない総会の実施は、福施連発足以来初めての経験であり、各家族会の理事の皆様方も物足りなさがあったことでしょうか、書面採決で全家族会一致して「賛成」の返信がありました。

コロナ問題で各団体の集会が禁止

されていましたが10月からはクロバープラザの研修室使用が定員いっぱい入室出来ることになりましたので、理事会や研修会を従来通り開催する予定です。



施設家族会紹介

板屋学園

板屋学園は自然豊かな背振山中腹の福岡市早良区板屋地区に建設されてから約30年、5年前土砂災害特別指定地域になり令和2年7月1日都心の早良区四箇に集団移転しました。

これまで家族会も、学園職員と共に利用者の成長を願い施設の行事に積極的に参加・協力し、多くの思い出も作る事が出来ました。

主な活動は20年以上続いている職員・家族との懇親会、年1回の家族会

嘱託医とコロナ対策

過日NHKテレビ報道で高知市の「あじさい園」にコロナのクラスター発生のニュースは、全施連関係者を驚かせました。

「あじさい園」では利用者人数より11人多い職員体制で利用者の支援を実施しているが、それでもコロナに侵入され、患者に最重度障害者もいたので全員県立病院に入院したものの、病院も施設も大変だったとのことでした。

日頃から嘱託医ではなく、訪問看護体制の病院と協力関係出来ることが必要と思われま

主催のバスハイク、毎月のボランティア活動等です。

新施設の居室はユニット型、全室7畳程度の1人部屋でゆつくり生活できそうです。定員は60名です。

これからは、災害発生時、病氣、不慮の事故などへの早期対応、職員の職場環境の改善と充実や家族の面会・地域住民との交流も非常に便利になります。

最近の家族会は親の高齢化や死去で会員は兄弟姉妹が増え、活動出来る方が減少しており、他の施設同様の悩みでもあり、信頼関係の構築と

絆の大切さを痛感させられています。学園のモットーである開かれた施設づくりへ向けて、努力していく家族会でありたいと願っています。



コロナ対策

ひびき学園の場合

私の妹が入所しているひびき学園（北九州市若松区）では、新型コロナウイルス感染防止のために中止が続いていた面会日が、今年7月に再開されました。

これまでは時間指定や制限はなく、普通に面会していました。

家族会の会合も施設内の一部屋をお借りして毎回実施していましたが、再開後は野外受付にて検温と荷物の受け渡しを済ませた後に各自の車で待機し、指定時間になったら同じく野外で仕切りを設置した面会ブースに移動して面会します。

各家族10分単位に時間を区切られており、設置されたキッチンタイマーが鳴ると面会終了となります。

家族会の会合は当面の間は実施できず、家族間の情報共有の場がなくなってしまうことが緊急の課題となっています。



「地域共生ホーム」の感想

★第二赤坂園 川添 キヨミ

本を手にした当初は、内容が難しくさうだと感じたのですが、読み進めると当事者として興味深いレポートもあり、数日で読み終えました。

弟が50年近く施設に入所していますが、知らないことばかりで驚きつつ反省もしました。障害者施設での仕事は、専門性のある特別な仕事なので、職員はすべて資格を持っているかと思っていました。職員に資

格があれば、よりプライドを持って働くことができるのではと思いました。

そして本書で知的障害者の人口割合が世界で2%と知り正直我が家がなぜ2%に入っているのかと思いい、一瞬心が氷になりました。今後、親や家族がいなくなった時のことを考えると不安でなりません。

今は弟が入所する施設から毎月1回写真付きレポートが届くので安心していきます。

今回このような本を出版して下さいました。由岐理事長他諸先生方に感謝いたします。

★城山学園 堤 裕美

障害のある人もそうでない人も誰もが幸福を追求する権利があるという至極当然の考えがあれば、この地域共生ホームという概念も尊重される社会になる筈である。

私達事業所スタッフは利用者の心の声に耳を傾けて慈しみ合いある居場所を創り上げていかななくてはなら

ない。その為にも様々な情報を収集共有し、やりがいと信念を持って支援の向上に務めなくてはならないのである。

本書巻末の点検シートは正に、障害のある人とその家族の心の声なのだと思ふかされる。

編集後記

世界中がコロナ感染問題で騒然としています。外出もままならず、施設にいる我が子らに面会も制限付きです。

家族会・保護者会の集会も開けずうつつとした気分の中、私達の懼れの高知市「あじさい園」にコロナが侵入。その「あじさい園」に『頑張れあじさい園』のぼり旗出現の報道に地域に愛されている存在の施設だとうるつと涙が出てきました。地域の人々と共に交わりながら生きる「共生ホーム」への道を手探りしながら施設と家族会は協働しよう。

